

日本ことば療法学会



Japanese Language Therapy Association

発行 一般社団法人発達支援協会 年2回発行(6月・12月)

〒452-0821 名古屋市西区上小田井2-98

TEL&FAX: 052 (505) 5255

<http://www.seepa.jp/u/nihon-kotoba-ryohou-gakai>

Eメール: takada@aroma-nagoya.com 発行人: 堀田喜久男

日本ことば療法学会設立

当学会は障害児・者のことばの療方を調査・研究、発表、実践を通して療法の普及並びに増進を図り、障害児・者のことばの獲得、言葉によるコミュニケーション能力を高めることを目的とする。

活動内容

- (1) ことばの療法に関する学術および技術の研究
- (2) 学会誌の発行
- (3) ことばの療法の講演会及び講習会などの開催
- (4) ことばの療法に関して関連団体との連携及び交流
- (5) ことばの療法に関しての相談・指導

日本ことば療法学会設立総会開催

日 時: 平成24年3月20日(火曜日)

時 間: 13:00~16:00(3時間) 16:40解散

場 所: 伏見ライフプラザ12階 NPOセンター会議室

参加人数: 11名

まだまだ寒さが身にしみる平成24年3月に日本ことば療法学会の総会が開催されました。学会の設立に賛同された13名(欠席2名)の委員の方が全国から出席して頂きました。委員長の設立の挨拶に始まり、委員の方の自己紹介・日本ことば療法学会の活動内容や方向性に関して、多くの意見が交わされ、無事終了することができました。

目次:	日本ことば療法学会設立
	委員長 設立に際して・・・・・・・・・・堀田喜久男
	各委員の紹介とメッセージ
	行橋(福岡県)支部だより・・・・・・・・・・工藤 知子
	障害児通所支援をはじめするには・・・・・・・・赤崎 倫夫
	コラム・情報・・・・・・・・・・穴戸 理恵



日本ことば療法学会設立に際して

日本ことば療法学会
委員長 堀田喜久男

平成22年度・23年度と2年間にわたり、独立行政法人福祉医療機構より助成金を頂き、全国4箇所（東京、大阪、福岡、名古屋）において2日間～3日間 障害児の発語を促し、学習能力を育てる音楽療法のセミナーを実施しました。参加者は障害児・者の指導者や療育者や特別支援学級・学校の先生方や施設の指導者や障害児の親御さんなど200名余りの方々でした。

参加者の多くの方は継続的、段階的に能力の積み重ねができる効果的な指導法がなく、何とかしたいと考えてみえるようでした。そして、この方法ならばすぐに実践しようといわれました。参加者の中にはこの方法を身につけてご自分のセッション等に活用したいという方があり、私が主宰する発語音楽研究所へ数日間おいでになり、研修される方も多くなりました。大学の15コマのカリキュラムを24コマに拡大して構成し対応しています。受講終了者も少しずつ増え、全国各地に支部もできて活動し始め、各地からの障害児の親御さんからのお問い合わせにも徐々に対応できるようになって来ました。

言葉の音楽療法としては1973年にMelodic Intonation Therapy (MIT)として、ボストン大学のAlbert, M. L. らによって発表された、失語症患者の言語回復訓練の方法があり、これは英語の強弱アクセントを基に構成されたものです。

私の日本語（言葉）の音楽療法 Japanese intonation Therapy は日本語の抑揚アクセント（高の高低）と2拍子の基本リズムフレーズ（いわゆる337拍子）を基に構成したもので、1993年に日本バイオミュージック学会で発表し、同学会誌 第9号に、学术论文「自閉症児の発語を促す音楽療法」として掲載されました。これは個々の障害児の実態に即して長期的・段階的に展開可能なものです。障害児・者の社会自立、社会参加が叫ばれている今日、その障害で最も軽減が望まれているものは言葉の障害ではありますが、この軽減に取り組む効果的な方法が少なく、指導者・療育者の意欲はあっても効果的な実践につながっていないのが実態ではないかと考えます。

この方法は構造がシンプルであるので、どなたでも、目的を持って本気で取り組んで頂ければ身につけることができます。現に親御さんが、お子さんがセッションを受けている先生と一緒に講習を終了され、毎日、ご家庭で指導をされている方もみえます。

このたび、多くの方々から要望もあり、音楽療法の枠を超えて言語聴覚士など近接領域の方々や意欲のある障害児の親御さんなどの参加を得てことば療法学会の設立ということになり、広く関係者から委員になって頂くことができ、設立に至りました。

障害児・者のことばの障害の軽減に向けて多くの方々の協力のもとに進めて行きたいと考えています。

委員の紹介

2009（平成 21 年）の開業から横浜市・鎌倉市の高齢者を対象に、介護予防、リハビリテーション、QOLの分野で音楽が心身・脳へもたらす療法的効果を利用し、目的に合った出張訪問音楽セッションを提供しております。介護予防は自治体・国の将来的な医療・介護費用を抑制することを念頭に、音楽を使った運動・知的活動を引き出すことで一般高齢者の身体機能や認知機能の賦活を図るもので、現在は区役所・包括支援センター・町内会館などで実施しています。リハビリテーション分野では神経学的音楽療法（NMT）に基いたプログラムで運動障害や高次脳機能障害の改善、認知機能の維持・向上を図り、在宅・施設で個人を対象に実施しています。特養や小規模多機能型居宅など高齢者施設では、楽しい音楽活動を通して利用者のQOL（クオリティ・オブ・ライフ）を高めるだけでなく、ADLの維持、心肺機能の向上、認知症進行緩和口腔機能の改善を目的としたプログラムも行っていきます。詳しくはホームページをご覧ください。

（株）キートン代表 日本音楽療法学会認定音楽療法士
ことば療法学会 副委員長 高橋 亮太郎（神奈川県 横浜市）



こんにちは。私は愛知県岡崎市で音楽教室 SiSiDo Music room（主にピアノレッスンや音楽療法個人セッション）を主宰、また専門学校の介護福祉科での高齢者音楽療法的講義・演習、その他知育音楽リズム講座や集団セッション、コンサート等の出張音楽などを行っています。

音楽療法では療育施設の集団セッションを通して、個人セッションの大切さをずっと感じていました。自閉症、ダウン症などの子どもたちにとっていちばん切実な問題に「ことば」の問題があります。堀田先生のメソッドを個人セッションにとり入れながら行っていますが、自分に対する不安が多いです。この学会が設立されることにより、多くの情報が得られるので大変有意義に思っています。またいろいろな研究、実践をされている先生方との交流が持てることも嬉しいです。音楽療法をじっくりとやっていきたいと思っています。よろしくお願ひ致します。

央戸理恵
（愛知県 名古屋市）



16名のメンバーと音楽療法を学びながら、音楽療法の普及に務めている。現在は、在宅高齢者、通所・入所高齢者施設、発達支援を必要とする子どもたちの会「でんでんむしの会」などで活動している。身近に言葉に困っている子どもさんや親御さんが見えになりますので、日本ことば療法学会の設立は大いに期待しています。その子供さんに合った療法などを紹介したり、実践をしていくことが私共の役目と心得ています。宜しくお願ひ致します。

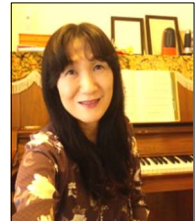
日本音楽療法学会認定音楽療法士、
イントネーション・ミュージックセラピスト、
ミュージック M ネットワーク代表。
カワイ音楽教室講師、ピアノレスナー。
1999年より、音楽療法を学びながら、高齢者施設等でセッションを行う。2008年日本音楽療法学会認定。2009年ミュージック M ネットワークを設立、

松浦光子
（京都府 舞鶴市）



大阪府吹田市を中心に音楽療法を主体とした団体で、胎教(マタニティー)から赤ちゃん幼児期の親子支援、高齢者の認知症・介護予防、高齢者施設や障がい者作業所、児童サービスでの音楽活動などを幅広く企画、運営しています。音楽は誰でも日常生活の中で気軽に楽しめるものです。「日本ことば療法学会」が設立されたことで、その音楽を通して、障がいを持つ子どもさんのことばの発達支援にも関わっていきたいと思います。リズムや歌など音楽を身体全体で感じながら、子どもさんにとっては楽しみながら、発声や発語を促し「ことば」に繋がっていくお手伝いが出来ればと思います。また、音楽療法とともにこの取り組みが全国的に広がり、「ことば」に悩んでいる方々に少しでもお役に立てるよう頑張っていきたいと思います。

日本音楽療法学会認定音楽療法士
NPO法人吹田市音楽療法推進会
おんがく・さ〜くる・コスモス 理事長
ローランド音楽教室主宰 増田 左知子 (大阪府 吹田市)



Aさんは言葉を話すことができません。Aさんは「いや! やめて!」を言葉で伝えることができないので、ストレスが溜まってしまいます。その結果、自分で自分の頭をポカポカ叩いたり、お母さんを突き飛ばしたりしてしまい、又、怒られてしまうのです。

私が音楽療法を行っている施設には、沢山のAさんがいます。Aさん達が年齢を重ねると共に、Aさん達の親族も歳をとります。いつまで家族と一緒に暮らせるのか解りません。いずれは入所施設で暮らすことになるかもしれないAさん達に、自分の思いを人に伝える手段として、社会的に容認される表現方法を獲得できるよう援助していきたい! その思いから、日本ことば療法学会に参加させていただきました。Aさん達には、まず、Yes, No, の表現からはじめています。

日本音楽療法学会認定音楽療法士・ジャズピアニスト
JHTA認定イントネーション・ミュージック・セラピスト
上野 奈央 (兵庫県 神戸市)



私は、障害児と高齢者のセッションに呼吸法を取り入れています。息は人間の基本で、正しく息を吸って生きるのか、少し浅い息で生きるのかでは、違った人生になります。正しい丹田呼吸で育った声は、年齢を重ねるごとに優しく明るく素直で、自由な透明感あふれる声に成長していきます。音楽を楽しめる感情豊かな心も育てる事になります。原点は、すべて正しい呼吸で人間の精神を安定させ、ものの見方、聞き方、話し方までもを正しく導き、落ち着いた人格をも育てあげるといわれています。ぜひ、呼吸法を実践してみてください

ミュージックインストラクター養成学院大阪校講師
一般社団法人発達支援協会所属ミュージックセラピスト
歌声サロン、コーラス、ピアノの指導
発語の個人セッションと通所施設でのグループセッション
MITS 全国音楽療法協会理事 元大阪女学院中・高校非常勤講師

土田 靖子 (大阪府 豊中市)



本州から関門海峡を越えて、福岡在住の徳田です。九州は今とてもエネルギーです。5月の連休も本州から多くの方たちが福岡を訪れているという地元放送局の放送がありました。私は、福岡市内の言語聴覚士の養成校の教員をしています。でもその原動力は時々の臨床場面で出会う多くの子どもさん達と親御さんたち、子ども支援に関わる保育士・指導員・リハビリテーションスタッフの皆さん、その他多くの関係者の方々との出会いです。子どもさん達を取り巻く方々がそれぞれの立場と思いの中で尽力を尽くし、激論をとばし…という姿を見ると、少子化という暗雲のかかった日本の未来に架け渡される一筋の虹橋のようです。

臨床において心は千々に乱れますが、「子どもたちが時間を満喫して過ごすあつという間の楽しい時」、ことば療法の時間はこの提供を確実に保障する一つの支援のあり方だ、そういう思いでこの学会が周知されていくことを願っています。



徳田 和恵 (福岡県 福岡市)

竹森若緒 (たけもり わかを) と申します。

堀田先生のメソッドを学び、4年ほど経ちましたでしょうか。今教室の子ども達は80人を超えるでしょうか。私自身も成長しながら、この仕事がどんなに必要とされているのかを体で感じている毎日です。1グループ6人前後の子ども達で母子分離の教室を作り独自の教材を作り、子ども達と言葉の勉強をしています。と申しましても、子ども達は勉強しているとは思ってはいないでしょう。楽しくなければ言葉は脳に届かない。それ以前に子ども達は耳に入れてもらえません。子ども達は歌って踊って友達を満喫して、言葉を獲得してくれています。今年は、シニアの方々とも関わって行けたらと思っています。悩トレーニングや体力作りにもメソッドを応用し使っていきたいと思っています。一人でも多くの子どもさんに出会って頂きたいです。



竹森 若緒 (愛知県 名古屋市)

セッションだより
福岡県 行橋支部 活動報告

福岡 行橋支部
支部長 工藤知子

こんにちは、福岡県在中の工藤知子です。堀田先生に全国セミナーでお会いする事が出来、全国セミナー終了後すぐに通信教育を受けました。現在セッションしている子供さんのママ1名は通信教育終了し1名は通信教育を受講中で頑張っています。マスカラやトランポリンを使い、子供達の笑顔、興味を引き出すよう日々前進しています。音楽に合わせ、トランポリンを飛ぶと、とても楽しいようです。子供のジャンプに合わせ、音楽(ピアノ)もゆっくりしたりはやくしたり・音楽(1曲)が終わると、子供もジャンプをストップします。少しずつ曲を覚えているようです。マラカスをなかなか持



を出す・それだけでもOKです。セッションの時間は、楽しい、ワクワク・・そう思ってもらえる事から始まります。お返事はラソラで〇〇ちゃん ラソラで は・あ・い、大きな声、小さな声で展開し、最後は子供から せ・ん・せ と呼んでもらい私が は・あ・い。最後に紙芝居もラソラの音程でピアノを弾きながら読みます。そんなセッションをしています。カーテンに隠れてしまう事や、ゴロゴロと寝てしまう事もありますが、好きな曲を弾き始めるとまた復活してくれます。子供達に使えるような物はないかと日々アンテナをはっている・そんな私です。

障害児通所支援をはじめするには

一般社団法人 発達支援協会
理事 赤崎倫夫

障害のある子どものための仕事に取り組もうとしても、経営的に続ける（利益をあげる）ことが難しいとよく言われます。障害のある子どもがいる家庭は医療費等の出費がかさむ上に、親（特に母親）の就業に制約があって収入面でも厳しいのが通常です。そこから子どものために余分な出費はできるだけ抑えようというので、塾などの習い事のための経費はできるだけ削ろうとします。必然的に各種訓練・レッスン等、障害のある子どもを対象とした習い事の売上は増えにくいわけです。保護者の立場から考えてみると、ハンディを負った子どもが将来どの様に生活していけるのか、国はあてにできないことから、現在の出費を抑えて将来に備えた経済的な蓄えを残そうとするのも当然のことなのです。

支援する側、支援される側、経済を間にして大きなジレンマが生じていますが、双方の調和が取れる唯一の道が福祉事業としての展開です。公費負担が原則となりますから、利用者の個人負担も軽減されかつ運営事業者にとっても安定収入となりえます。今年の4月から児童福祉法が改正されて、障害児支援の強化がうたわれました。そのひとつ、障害児通所支援（児童発達支援事業と放課後等デイサービス）とはどのようなものなのでしょうか、そこに活路を見出しましょう。

通所支援事業の目的は「障害児が日常生活における基本的動作及び知識技能を習得し、並びに集団生活に適應することができるよう、障害児等の身体及び精神の状況並びにその置かれている環境に応じて適切かつ効果的な指導及び訓練を行う」ことです。その支援の内容としては「(1) 児童発達支援計画の作成、(2) 基本事業 (ア) 日常生活訓練（日常生活動作、歩行、軽スポーツ、音楽活動等） (イ) 集団生活適應訓練（会話、手話、点字、パソコン操作等） (ウ) 創作的活動（絵画、工作、園芸等） (エ) 更生相談（医療、福祉、生活の相談等） (オ) 介護方法の指導（家族等に対する介護技術指導等） (カ) 健康指導（健康チェック、健康相談） (3) 介護サービス（更衣、排泄等の身体介助） (4) 送迎サービス（事業所の所有する車両により、障害児の自宅と事業所との間の送迎を行う）」が例として挙げられます。ただし、この全てを実施する必要はなく、上段にある目的を踏まえていればそれぞれの事業所の特色を中心に組み立てることができます。

具体的には「音楽療法をもとにした言語訓練」を(ア)や(イ)の柱にできます。では、事業所として始めるにはどうしたらよいのでしょうか。①時間②場所③人のTP03要件が定められており、各都道府県・政令市によって詳細な指定基準がありますから事前に相談することが必要です。まず対象者は、「児童発達支援事業所」は18歳までの「児童」が基本原則ですが、一般的には2・3歳から6歳の就学前の乳幼児です。「放課後等デイサービス」は「幼稚園を除く学校法上の学校に通う児童」つまり小中高生です。ここには高校在籍の18歳を超えた20歳未満の子どもも通えます。対象の人数は事業者が「定員」を定めます。報酬単価と設備・人員基準とのバランスからは10名の「小規模」で設定するのが妥当です。

コラム①

『ことば』とは

学会委員 穴戸 理恵

『日本ことば学会』の発足にあたり、「ことば」とはなんだろう???といろいろ考えてみました。聖書の中にも『初めにことばありき』とできます。(私はクリスチャンではないですが・・・)人間にとって「ことば」とは気持ちを伝え、文明をつくることに繋がるなど何者かに与えられた、とてつもなく凄い財産だと思われま。日本では例えば「万葉集」などでは少ないことばを最大限に駆使し、自然の美しさや、心、人生などをうたいあげます。私たちは、たった五十音の組み合わせで話をしています。文字の組み合わせで無限の表現が可能です。日常会話も、学問も、ジョークも、いろんな説明も。これは不思議なことだと思います。これに例えば母がかわいいわが子に語りかけることばの表情、自己を主張する力強い語調など、精神的な要素がさらに組み合わせられます。

単語のたった一音節でも、一つの母音でも、何種類かの意志、気持ちをのせた時、音の表情から様々な何かが読み取れます。肯定的な様子、納得した様子、元気な声、怒っている声。疑問を持っている様子、ことばのない者にとってその世界を獲得することは、再度、新しく産まれることに匹敵するのではないのでしょうか。喜び、悲しみ、嫌悪、驚きなどの魂の声。ヘレンケラーが「水」を「ウォーター」と解かった時はどんなだったのでしょうか?ことばの元は「音」であり、「音楽」でもあると私は思います。「初めにことばありき」とはどんな音だったのでしょうか・・・

『日本ことば療法学会』のもつ意味はとても深いと思います。凄く良い学会だと思います。療法の研究・実践と共に、「ことば」について、いろいろな角度からこれからも考えていきたいと思っています。

6月14・15日(金曜日・土曜日)に一般社団法人『日本言語聴覚学会』の全国大会が福岡にて開催されました。その際、一般社団法人 発達支援協会の案内パンフレットを置いて頂きました。ありがとうございました。

事務局より

～第1回～

日本ことば療法学会 シンポジウム 開催

会場：大阪

基調講演 / シンポジウム / ワークショップなど

平成25年2月下旬(予定)

日本ことば療法学会(JLTA)の創刊号が出来上がりました。ここ2年間、発語(言葉)を促す音楽療法の全国セミナーに同行して感じたことは、コミュニケーションにとって言葉は大変重要であり、言葉で意思表示をすることが少しでも出来れば、解決することが多くあることを実感しました。発語(言葉)の療育は少しでも早めに始めることが、ことばを獲得できる一歩となります。子どもさんは自分で始めることができません。療育を始める際のポイントは、自分も子どもも楽しく、喜んで学べて、充実した時間を過ごすことができるか?できたか!それが、子どもさんが伸びる一番の要因だと思います。

本年度は6都市(同封パンフ参照)にて全国セミナーを7月より開催致します。発語(言葉)の療育に関心をお持ちの療育者の方々や親御さんにお逢いできることを楽しみにしています。(高田)

日本ことば療法学会ホームページ
日本ことば療法学会 →検索

日本ことば療法学会のブログ
ことば療法学会 →検索

発行部数: 500部